

クイーンズランド州スカラシッププログラムを終えて

佐々木 夏希

・はじめに

この度、埼玉親善大使として埼玉県・クイーンズランド州スカラシップに参加させていただきました佐々木夏希です。この17日間は毎日が新しい景色に溢れていて、とても貴重な経験になりました。このような素晴らしい機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

・Yeppoon

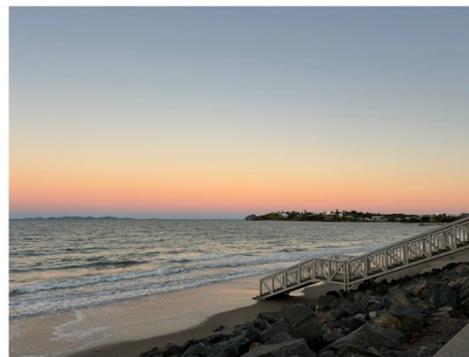
Yeppoon は、オーストラリア クイーンズランド州東部の海岸沿いに位置し、自然がとても豊かで温暖な気候の町です。海がとても近くにあるので、毎日放課後にホストファミリーとビーチを散歩しました。健康のために、私たちと同じように散歩したりランニングしたりする人が多く見られました。

・学校生活

私たちは7日間、Yeppoon State High School (YSHS) に通い、現地の生徒たちと共に授業や校外学習に参加しました。

授業の構成は、70分×4コマで3、4限の前に長い休みがあり、ランチやさまざまな球技などを楽しみます。また、教科は選択制で、毎回違うメンバーで授業を受けていました。授業の進め方も、日本と比べてディスカッションをしたり課題を各々で進めたりと、考える時間が多い印象でした。

約2週間の生活を通して私が驚いたことは、日本語の浸透率です。YSHS 以外にも St Ursula's College (私立女子校) Emu Park State School (公立小学校) に行きましたが、どこの学校でも第二外国語として日本語の授業を行っていました。私のホストマザー・ファーザーも学生時代に日本語を学んだと言っていました。同時に、現地の大学には多くの日本人が通っていたり、和食のお店も多くあったりして、日本とYeppoon との強い結びつきを感じました。



・ホームステイ

現地での生活を通して、普段私が当たり前と思っていた生活と比べる中で、日本・オーストラリアそれぞれの良さを感じました。

まず、オーストラリアでは水を大切に使う習慣があります。水がとても貴重なものなので髪を毎日洗うことは常識ではなく、どの家もシャワーを使う時間の長さを決めていました。

また、17時ごろには皆が帰宅するため、家事も家族で分担して行っていました。夕食は家族全員で食卓を囲み、食後には家族団らんの時間があります。私は、ボードゲームをしたり、オリンピックを観戦したり

しました。そして 22 時までにはそれぞれ寢室に入ります。心身共に健康に繋がる習慣がとても良いと思いました。

食事の場面では、日本文化の良さにも気づくことができました。「いただきます」「ごちそうさま」で感謝を伝え(現地の方々にも説明すると、感心されました)、栄養バランスが考えられた日本の素晴らしい食文化を大切に、もっと世界中に広めていきたいという気持ちが芽生えました。

・親善大使として

私は、埼玉県のパンフレットや写真を見せながら、秩父や川越、鉄道博物館などを紹介しました。埼玉県を知っている人は学校にもいなかったの、県としてもアピールポイントの一つとしている、Just North Of Tokyo として埼玉県の位置を紹介し、おすすめしました。また、Google Map で私の小中学校、近所の公園など街の様子を見せると、建物の密集具合に驚かれました。

今年は、埼玉県・クイーンズランド州の姉妹提携40周年ということで、在ブリスベン日本国総領事公邸でのアフタヌーンティーセレモニーにも参加させていただきました。海外で活躍されている方々のお話を聞かせていただいたり、私たちが留学期間に感じたことを共有したりすることができ、とても有意義な時間となりました。

・終わりに

今回の留学を通して、新たな視点から自分が当たり前にしてきた文化や習慣を見直し、それぞれの良いところに気づくことができました。この経験をここで終わらせることなく、SNS 等も活用しながら学んだことを発信するなど次のアクションを継続し、埼玉県や日本と世界との架け橋のような存在になれるようこれからも努めていきます。

改めて、このプログラムに携わってくださった、埼玉県・クイーンズランド州の全ての皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

